

濱本浩 ハシモト ヒロシ 小説家。明治二十二年八月十四日愛媛縣生乳。昭和二十四年二月十日自殺（二九〇—一九五九）。筆名藤木猶、藤木猶太、野花。

明治四十一年同志社普通學校中退。博文館に入り雑誌『中學世界』の訪問記者。のち新聞記者を経て大正八年改進黨京都支部長。昭和七年浪社として作家生活。

著書『凡か・非凡か』（藤木猶太名、大正十四年九月十五日、京都偉人會

・文化の日本社）、『濱本浩篇—裏街の乾杯 逆航路』（昭和七年二月十二日

非凡閣『新選大衆小説全集』）、『淺草の灯』（昭和十二年二月二十

一日新潮社）、『錦旗揚らば』（昭和十四年二月五日興亞書局）、『大

衆名作五人集』（合著、昭和十五年十二月一日大新社）、『動土小説

名作集』（合著・大橋進一編、昭和十五年十二月六日博文館『名作文

庫』）、『山岳武士』（昭和十八年二月一日大阪・博文館）、『愛國

浪曲原作集』（合著・経國文藝の會編、昭和十八年二月十日大和書

店）、『江藤新平』（昭和十六年六月二十一日興風館）、『烽火』（昭

和十六年十一月二十日博文館『小説選集』）、『選ばれた男』（昭和

十七年十二月十日大和書房）、『高涼列車』（昭和十六年十一月十五

日大阪・博文館）、『旅順』（昭和十七年一月八日興商會出版部）、

『花暦』（昭和十七年二月二十日婦女界社）、『海峡』（昭和十七年

二月二十日紫文閣）、『青い野薔薇』（昭和十七年二月二十日淺海

堂出版部）、『静かな十六夜』（昭和十七年八月

二十日文芸堂）、『南万船』（昭和十七年九月十

八日八幡社杉山書店）、『海援隊』（昭和十八年

五月二十日新太陽社）、『淺草の灯』（昭和二十一年九月二十日コバ



ル下社「映畫化文藝名作選」( 昭和二十一年  
 三月五日自由書房 )、可不良少年 ( 昭和二十二年二月十五日石書  
 院 )、可オパシ役者 ( 昭和二十二年九月十五日分社 )、可淺草の  
 灯 ( 昭和二十四年七月十日田園社 )、可淺草の肌 ( 昭和二十四年  
 十月五日毎日新聞社 )、可夜明の音頭 ( 昭和二十七年四月十日同光  
 社磯部書房 )、可火たるま主人 ( 昭和二十八年十一月十五日日本通  
 報社 ) 等。